

2013年2・3月に行った放射線量調査の結果について

2013年3月10日 日本共産党川崎市議員団
(追加調査を行なったため同年4月4日に加筆修正)

- ・ 日本共産党川崎市議員団は2013年2月9日から3月29日まで、83の公園等で166カ所の空間線量を測定した。そのうち過去に測定を行ったのと同じ箇所でも測定し、比較可能な測定箇所が86あった。
- ・ 比較可能な86カ所について、同一箇所でも測定したもっとも古い測定値と比較したところ、線量が低減したのは82カ所(75%)、増加したのは27カ所(25%)あった。増減量の平均値をとってみると、放射線量は当初の77.0%に低減(0.047マイクロシーベルトの減)している。
- ・ セシウム134、セシウム137の半減期をみると、川崎市議団が第一次放射線測定を行った2011年6月末から、今回測定を行った2013年3月までの1年8カ月の間に、放射線量は当初の77.5%に低減すると考えられるⁱ。上記のように実測値を比較したところ、放射線量は77.0%ほどとなっており、ほぼ半減期どおりに低減している。
- ・ 過去に高い線量を計測したため行政などが一度除染を行なった箇所についてあらためて計測したところ、いずれも除染後の線量は低いままであり、再び線量が上昇することは確認されなかった。
- ・ 比較可能な箇所の4分の1で放射線量の増加が確認されたなかで、前回比+0.046、+0.036など大幅に上がった箇所もあった。
- ・ 以上のことから、引き続き放射線量の監視が必要であり、特に子どもにかかわる施設や通学路・公園などについては丁寧に監視していくことが重要である。

ⁱ 2011年3月11日のセシウム134・137の放射線量をそれぞれ50とし、合計100とした場合に、①第一次放射線測定を行った2011年6月末の時点では【44.9+49.6=94.5】、②今回測定を行った2013年2月末の時点での線量は【25.6+47.8=73.4】となる。73.4/94.5=0.775であり、13年2月末の放射線量は11年6月末の77.5%に低減する。